

## 黒田精機、EVシフトでブレーキに力 メキシコで3割増強

2024/8/22 5:00 | 日本経済新聞 電子版



黒田精機製作所が製造する自動車用ブレーキのピストン

自動車部品メーカーの黒田精機製作所（名古屋市）は、メキシコ工場でブレーキ部品の生産能力を8月から3割引き上げた。主要取引先である車部品最大手の独ボッシュが北米市場で事業を拡大することに対応する。電気自動車（EV）シフトで主力のエンジン部品の需要縮小が見込まれる中、ブレーキ部品の販路拡大につなげる狙いだ。

黒田精機は1925年創業で、自動車用のエンジン部品やブレーキ部品を手掛ける。24年3月期の売上高は62億円で、アイシングルーブとの取引が5割強、ボッシュとの取引が3割強を占める。

増産するのは電動油圧ブレーキに搭載するピストン部品で、ブレーキを踏み込む力を油圧に変換する役割を果たす。電動ブレーキは操作に対する応答性が高く、タイヤの横滑り防止などの制御がしやすい。先進運転支援システム（ADAS）の性能を高めるため、EVのみならずガソリン車などでも採用が進んでいる。

ボッシュは北米市場で、[ホンダ](#)や[日産自動車](#)、[米テスラ](#)、欧州ステランティスなど電動ブレーキの供給先を広げている。これに伴い、黒田精機も部品の生産設備を増強しており、国際協力銀行（JBIC）と三菱UFJ銀行から計150万ドル（約2億1900万円）の協調融資も受けた。

エンジン部品についても足元の需要増に対応する。メキシコ工場で、9月からエンジン関連バルブの生産能力を2倍に拡大する。エンジン関連バルブは、エンジンの回転数などに応じて、吸排気バルブの開閉タイミングをきめ細かく制御する。[トヨタ自動車](#)が部品の現地調達を強化しており、黒田精機はアイシンへの供給量を増やす計画だ。



黒田精機製作所はメキシコでブレーキ部品を増産した

メキシコは安価な人件費を生かし、米国への輸出拠点として発展してきたが、足元では政治リスクをはらんでいる。自国主義を唱えEV嫌いでも知られる米国のトランプ前大統領は、11月の大統領選で再選した場合、中国メーカーがメキシコで生産した車に「100%の関税を課す」と明言する。

黒田敏裕社長は、トランプ氏の方針について「中国の自動車メーカー以外にも対象を広げる動きが出ないか、状況を注視する必要がある」と身構える。

将来的には車の電動化は避けられず、エンジン部品は中長期的に縮小することが見込まれる。黒田精機は新規事業の開発にも力を入れており、ボルトの取り付けなどに使われる作業工具のカバ

一の販売にも乗り出した。黒田社長は「減少分はブレーキ部品や新規事業で補いたい」と語る。各国の保護主義政策やEVシフトなど、サプライヤーを取り巻く環境は大きく変化している。内燃機関事業の収益性を高めつつ、電動化部品など成長分野を開拓するという難しいかじ取りが求められている。

(清水涼平)

## 地域ニュース

[全国各地の最新記事やおすすめコラムはこちら](#)

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.